

令和5年度三者合同会議（第7回社会教育委員の会議） 次第

令和6年1月31日（水）
午後1時30分から
市民会館萌え木ホールA会議室

- 1 開会挨拶（生涯学習部長）

- 2 講演「ポストコロナ社会における社会教育の役割について」
講師：小金井市社会教育委員の会議議長 笹井 宏益 氏

- 3 ワークショップ・ディスカッション
「ポストコロナ社会における社会教育活動の具体化に向けて」

- 4 まとめ

ポストコロナ社会における社会教育の役割について（レジюме）

1 学校教育システムをめぐる環境の変化

- (1) 近代化における学校の役割
- (2) 生涯学習理念における学校の位置
- (3) 現代における学校教育の意義と課題

2 戦後社会教育の原点とその変容

- (1) 終戦後の社会教育
- (2) 高度経済成長期の社会教育
- (3) バブル経済崩壊後の社会教育

3 社会教育の原理

- (1) 3つの学び〔個人で学ぶ／仲間とともに学ぶ／教育機関で学ぶ〕
- (2) 仲間同士の関わり合いと「気づき」
- (3) 社会教育のカタチと地域づくり
 - ・「集う」「学ぶ」「結ぶ」
 - ・集合学習／集団学習


4 ポストコロナ社会における社会教育の役割

- (1) コロナ禍が社会教育活動にもたらした影響
- (2) ポストコロナ社会における社会教育の方向性

5 ワークショップ・ディスカッション

* テーマ：ポストコロナ社会における社会教育活動の具体化に向けて

6 まとめ

The background is a light blue gradient with several realistic water droplets of various sizes scattered across it. The droplets have highlights and shadows, giving them a three-dimensional appearance.

ポストコロナ社会における社会教育 の役割について

2024年1月

笹井宏益

明治期における近代化政策の特徴

- 「富国強兵」を志向
 - ▷産業振興（重工業中心）
 - ▷軍事力強化
 - ▷人材の育成
- 追いつけ追い越せ型（キャッチアップ型）
 - ▷国家レベル、組織レベル、個人レベルでの上昇志向
 - ▷目標の設定とその達成のための「努力」のススメ
- 新しい価値（体系）や文化を習得する場としての学校教育
 - ▷聖域としての学校、聖職者としての教師

近代化における学校の役割

- システムとしての学校教育
 - ▷ 徹底した学校教育システムの整備と充実
 - ▷ エリート養成主義の具体化としての高等教育機関
 - ▷ 法学など統治指向型学問の重視（職業的専門性の軽視）
- 学校段階を踏み台とした直線的な上昇志向（学歴志向／学校外教育の軽視）
- 地域社会に伝統的な文化を残しつつ、学校教育には新たな文化・文明を取り入れ次世代に伝承（学校文化と地域文化とのギャップが生まれる？）

人間が豊かに生きるために学ぶべき価値とは？

「動いていない」
Staticな社会の場合

- 不易と流行の「不易」を重視
- 普遍的な価値を学ぶ
- 一定期間学ぶことで一生役立つもの

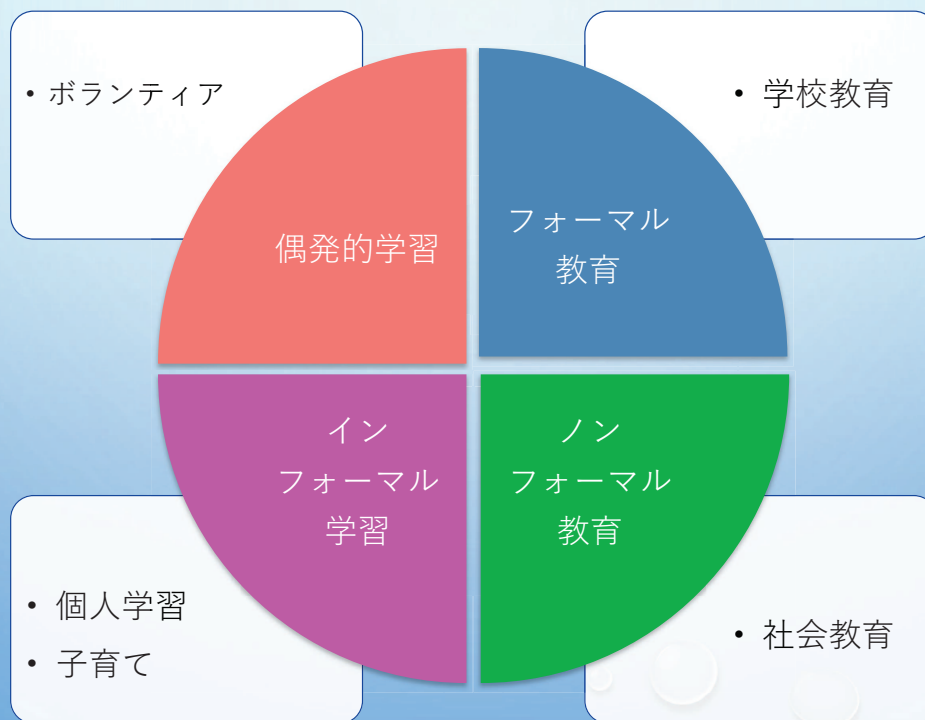
学校教育の存在意義

「動いている」
Dynamicな社会の場合

- 不易と流行の「流行」を重視
- 社会が求めている価値を学ぶ
- 常に学び続ける（刷新する）ことが必要

価値の
多元化
流動化

生涯学習に含まれる4つの学習（教育）類型



社会の変化と生涯学習理念

生涯教育の文脈における初等中等教育のあり方を変える
〔基礎・基本（リテラシー）の習熟／学び方を教えるべき〕

生涯教育の文脈における高等教育のあり方を変える
〔社会人として必要な教養や専門的基礎の習得／コンピテンシーの習得〕

学校教育以外の（社会の様々な場面における）教育／学習機能に対する
意義づけの拡大 → 個々の学習者による選択的な学びへのシフト

従来の教育行政の抜本的改革の必要性 → 日本では学校教育の上位概念としての
生涯学習概念が機能しなかったため、生涯学習政策部局は2018年に解体〕

(学校以外での) 学びのカタチとは？

一人で学ぶ

メディアを使って学ぶ
(読書、ネットで情報収集)

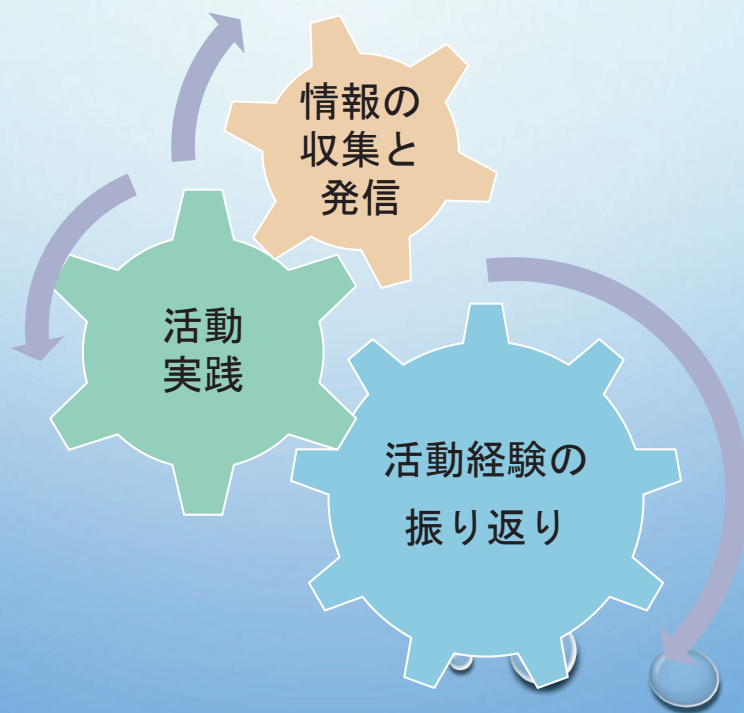
非日常的な活動で学ぶ
(旅行、ボランティア活動)

仲間 (他者) とともに学ぶ

グループ・サークルで学ぶ
(集団学習)

講座やセミナー、研修会で学ぶ
(集合学習)

一人で学ぶ際の「学びのスタイル」



仲間とともに学ぶ際の「学びのスタイル」



社会教育の原理的特徴

○ 相手（仲間）がいて初めて成り立つ活動

○ 相手との関わり合いによりお互いが成長する活動

○ 知識を得たり気づきを得たり自分で価値を創ったりする活動

○ 課題と解決プロセスの共有が相手とつながるための接着剤

公民館 → 「社会教育の場」が有する3つの機能

集う場

- 生活の中で気軽に出会う
- 互いに情報を持ち寄り共有する
- 集合学習の場として機能

学ぶ場

- 他者との関わり合いの中で、知識や技術を得たり気づいたり価値を創出したりする
- 集団学習の場として機能

つながる場

- 地域の人たちがネットワークを形成する
- 機関や団体同士がネットワークを形成する
- ネットワーキングの場として機能

学校教育と社会教育との相違（1）

学校教育は

システマチックな活動

Formal

形式化・制度化された活動

- 組織的な活動
- 計画的な活動
- 制約・強制・インセンティブによる管理運営が基本

社会教育は

機能（作用）的な活動

Non-formal

形式化されない、多種多様な活動

- 緩やかなつながりによる活動
- 計画がないかあっても緩やかな計画による活動
- ボランタリーな意欲や行動を促す管理運営が基本

学校教育と社会教育との相違（2）

学校
教育

システマチックに組織化されている
→教育委員会・指導主事・校長・教員
システマチックに計画化されている
→朝礼・授業・給食・部活動・学校行事

社会
教育

ゆるやかに組織化されたり計画化されている
→グループ・サークル・団体（集団型）
→講座・セミナー・研究協議会・学習会など
施設に集まってする活動（集合型）

学校教育と社会教育との相違（3）

学校教育

アカデミズムをベース

- 体系的・順序立てられたカリキュラム
- 授業は教師のイニシアティブで作られる
- 指導案・正解・ねらいやレベルの設定

生活上直面する（するであろう）課題をベース

社会教育

- 課題〔=悩みごとや困りごと、関心のあることや実現したいこと〕ごとのプログラム
- 講座は学習者のイニシアティブで作られる
- 学習者の理解・気づき・納得・満足が重要

社会教育の特徴を踏まえた社会教育行政の特徴



社会教育行政を実施する際の基本的視点

公共性の所在

- 公共的な価値の所在を「**地域課題の解決**」に求める
- **課題の抽出・共有・解決**のための学び

条件整備

- 社会教育の**自由を尊重した条件整備**
- **学ぶ場の整備や人々の組織化に着目した条件整備**

学ぶプロセス

- 継続的で発展的な**議論や対話を促す**支援の必要性
- **専門職員によるファシリテートやコーディネート**の必要性

古典的な社会教育行政の手法（内容）

社会教育行政の手法（1950年代に確立したもの）



社会の変化と人と人との結びつきの変遷

| | | | |
|-----------------------|---------|------------------------|--|
| 1950年代～ 1960年代初頭 | 戦後復興期 | 農村共同体 | 地縁・血縁中心の人間関係 |
| 1960年代前半～ 1970年代前半 | 高度経済成長期 | 都市化 工業化 | 過疎と過密の進行 仕事中心の生活 会社中心の人間関係（社縁） |
| 1970年代後半～ 1980年代後半 | 安定成長期 | 東京一極集中 サービス化 情報化 | 都市化が進行しつつも地方への関心高まる 仕事中心の生活 会社中心の人間関係（社縁） |
| 1990年代～ 現在 | バブル経済崩壊 | 高度情報通信 ネットワーク化 | 地域づくりへの関心高まる 趣味やボランティア活動への関心高まる ワークライフバランス |

社会の変化と社会教育の変容

| | | | |
|-----------------------|---------|------------------------|--|
| 1950年代～ 1960年代初頭 | 戦後復興期 | 農村共同体 | 地縁・血縁をベースにした 戦後の社会教育モデルの成立 |
| 1960年代前半～ 1970年代前半 | 高度経済成長期 | 都市化 工業化 | 人口移動に伴う戦後社会教育モデルの衰退 民主主義の普及浸透（市民の成熟） 自己実現欲求の高まり |
| 1970年代後半～ 1980年代後半 | 安定成長期 | 東京一極集中 サービス化 情報化 | 社会教育不要論 趣味教養中心の社会教育 古典的な社会教育関係団体の衰退 |
| 1990年代～ 現在 | バブル経済崩壊 | 高度情報通信 ネットワーク化 | 生活志向・地域づくり志向の社会教育 人とのつながりに焦点をおいた社会教育 個別的課題から包括的課題へ |

社会教育行政はその存在意義をどこに求めたか？

終戦直後

- 公民（citizen = 民主主義の担い手）の育成（公民教育の推進）
- 地域住民の生活改善（生活の合理化・近代化の推進）

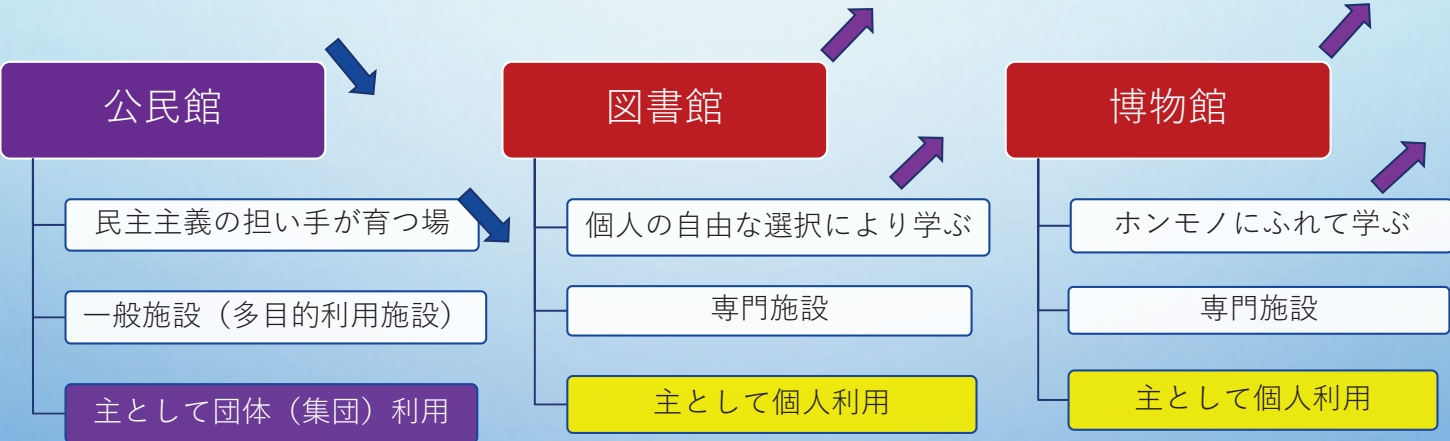
経済成長期

- 個人の充実や自己実現の推進

バブル崩壊後
現在まで

- つながりづくり／孤立・孤独の克服（社会参加の促進）
- 地域づくり／生活の質の改善

社会教育施設の目的・機能



現代の日本社会が直面する課題


社会のフェーズ

- キャッチアップ型の目標の喪失と地球レベルの課題対応
- ヒト・モノ・情報の移動性（モビリティ）や関係性の拡大
- デジタル化・バーチャル化への対応


個人のフェーズ

- 目的的な生き方自体への疑義・再検討
- 上昇志向の否定と生活充実志向
- 分断・孤立と「個の世界」の拡大

社会教育の本質 = 仲間とともに関わり合うこと



他者との**対等な関係性**に基づいて行われる活動



関わり合うことによりお互いが成長する活動



知識を得たり気づきを得たり自分で価値を創ったりする活動

社会参加から社会教育実践までのプロセス

1) 他者と接する (例 カフェなどで新聞を読む)

2) 他者と対話する (例 気軽におしゃべりをする)

3) 他者と情報交流をする (例 課題を共有し交流する)

4) 他者と関わり合う (例 課題を共有し議論をする)

5) 他者とともに実践する (例 課題を共有し作業をする)

コロナ禍を経て社会教育はどのように変わるか

学ぶ（実践する）目的の個別化により、つながりの規模や形がマイクロ化・多様化する

バーチャルな関わり合いの普及に伴い、情報の収集・編集・発信の方法が変わる

フラットでダイナミックに変容する関係性（対等な関係性）が創出される

課題のありようが総合的でありながら多元的・個別的・選択的になる

他者と関わる（社会に参加する）ための「接点」や「対話」などのプロセスが重視される